

カウントダウン

第五話 13a トラギノ明朝 (W2) 28w 話
12Y
カズマはつぶやいた。
「できた……」

カズマが勤める「みんなのこども病院」が二年連続で赤字だと知らされておおいに動揺し、部長に促されるままに病院収支のこと、診療報酬制度のことを調べていた。そして、損益計算書を読み解いていった。補助金が合計80億円以上も投入されているのに9億4千万円の赤字という事実は飲み込みがなかったが、ともかくにも病院をとりまくお金の流れの全体像がどうにもわからない。そこで、自分でまとめてみることにしたのだ。が、予想以上に複雑でだいぶ時間を要したが、ようやく今、完成したのだった。

軽い達成感をかみしめながらまわりを見ると、三田村がいた。同門の先輩で、気心の知れた麻酔科医と手術をしたいとカズマをこの病院に誘った小児心臓外科医だ。カズマの2コ上、つまり10年目のだが、心臓外科業界では若手に属する。今や絶滅危惧種といってもいい存在だ。

カズマはこの大作をちよっと自慢したくなって、近寄り声をかけた。

「先生、ちょっとみてください」

三田村は物憂げにカズマを見上げ、頬杖をついたまま差し出されたパソコンの画面を覗き込んだ。

「医療をとりまくお金の流れを図にしてみました。イラストを

16ミ
16ミ
16ミ

会計負担金（自治体一般会計からの補助金）も期待できないのでさらに経営が厳しい。ただし皮肉なことに、黒字化を達成している病院の多くは民間病院であるというのが現実である。公立病院は補助金で下駄を履かせてもらっているにもかかわらず黒字化できていないところがほとんどである。公立病院の経営陣は民間病院の経営手法を見習うべきだろう。

また、病院が業者から材料を購入する代金には消費税が課税される。しかしながら、消費税率が上がっても診療報酬が同率で上がるわけではない。過去の消費増税時における診療報酬改定は、それに見合う水準ではなかった。令和8年度の改定で、手当がされたとはいえ、消費税率と診療報酬が連動する仕組みにはなっていないので、今後、消費税率が上がればアンバランスは悪化し、病院経営はさらに苦しくなるだろう。

ちなみに、現在、医療以外で日本の政府が公定価格を決めている例としては、保育園の保育料くらいしかない。

このような公定価格が決められてしまう業界は、国の財政状況や景気に左右されることになる。

三田村は続けた。

「それで、この図を使う発表のテーマは何なん？」

「……あ、いや、発表用というわけではなくて、自分の頭の中を整理したくってやり始めたらはまっちゃって……」

「へー。ほんでも、だいぶ時間をかけたんだらうし、せっかくなら何か医療とお金のテーマを絡めてどこかで発表して、専門医更新の点数につなげたら」

思いもかけないことを言われ、カズマは考え込んだ。専門医更新の点数が足りないわけではないが、確かに、ここで近しい数人に自慢気に見せて満足して終わるのではなく、ここから何かを発表していけば、病院赤字問題解決の糸口が見つかるかもしれない。ただ、発表、とひと口に言っても、何をどうすれば

Y140ミ
流用

入れたら、けっこういい感じでしょう」

カズマの声は少し上ずっていた。少しの間があって、三田村はぼそりとつぶやいた。

「確かに、ようできてるわ。見る人がみれば、今の保険診療ではウチらに限らず、どんな病院でも収支が苦しくなる理由がようわかる」

図にあるように、病院から出ていくお金の多く（経費・委託費・給与・利息）は市場で価格が決められるのに対して、入ってくるお金、すなわち、医療技術やサービスの価格、医療材料の価格および薬剤価格を決めるのは政府であり、医療機関などの事業者は自分で価格を決めることができない。そしてここ数年、世界的なインフレ（物価上昇）や円安の結果としての原材料費・人件費・輸送費などの高騰により、医療材料は値上げが繰り返されている。したがって、急性期病院では、ほとんど上がらない診療報酬に対して大幅に増える費用がまわって釣り合わず、利益が出ない構造となっている。

この図は公立病院の場合なので、病院から国への納税は免除されている。そして公立病院は小児や救急、周産期、離島・僻地医療などの不採算医療を担うこととの引き換えに自治体からの多額の補助金が投入される。にもかかわらず、決算では経常損失（赤字）になってしまうのが、今の医療制度のヤバさでもある。民間病院の場合は、法人税や固定資産税を納付する必要がある（病院から出ていく矢印が増える）うえに、公立病院にあるような一般

(前後)
105ミ
177ミ

0.12ミケイ・ベタ

流用(以下同)

いいか見当がつかない。もちろん、この図だけでは不十分なので、もつといういろいろ調べたりする必要も出てくる。今、確実にわかっていることは、自分一人では挫折するということだ。しかし、共同発表者、つまり一緒に考えてくれる誰かがいれば……。

「確かに、発表する機会があれば嬉しいですね。じゃあ、先生だったら、どんなテーマがいいと思いますか」

「そんなん急に言われても、すぐには思いつかへん」

「ですよ。でも、せっかくだから、一緒にやりましょうよ」

カズマはやや強引だとは思いつつ、三田村ならば乗ってくれることを確信していた。数秒間、時計がカチカチと鳴るのを聞いた。

「まあ、カズツチとは一連托生ってことなんかね」

と言いつつ三田村は右手を差し出した。カズマはその手をがっちりと握った。心強い仲間ができた。

「ただ、ちょっと今日はごめん、明日の症例の準備があるから、この話はまた日を改めてつてことで」

「そうでした。じゃあ、この話の続きは来週にでも。それまでに、医療とお金について、いろいろ考えておきましょう」

カズマは、「お金の動き」の図を部長にも見せて、発表のテーマを考えるヒントをもらおうと思ったが、すでに帰宅の途についていたので、メールを送っておいた。

カズマは、メールを書きながら自分が何かに突き動かされているのを感じた。あの日、代理出席した部長会の翌日に「なぜ、赤字なのか」と部長に詰め寄った時、部長がつぶやいた言葉を思い返していた。

「昨日は君にとって、重要な問いに出会えたんだ」

その問いが何なのかはまだはっきりとはわからない。でも、このまま進んでいけば、いつかは出会える気がしていた。だから、前を向いて進もうと思った。

明智部長

お疲れ様です

「病院を取り巻くお金の流れ」を図にしてみました
添付ファイルをご確認ください

この図をみながら心臓外科の三田村先生と話をしていたら、何か発表テーマがないか、ということになり、一緒に考えることになりました

病院赤字を解消するためのヒントになるようなことを考えられたらいいなと思っております
部長のお知恵も借りできれば嬉しいです

どうぞよろしくお願いいたします

カズマ

12.5a
ロタンM

ネム 80%

12.5a
ロタンM
13a 17a/明朝 (w6)